

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月28日現在

機関番号：82628

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20730384

研究課題名（和文）イギリスにおける医療圏と地域医療連携に関する歴史的研究

研究課題名（英文）The Transformation of Regionalism and Inter-sectional Collaboration in the British Health Care System

研究代表者

白瀬 由美香（SHIRASE YUMIKA）

国立社会保障・人口問題研究所・社会保障応用分析研究部・第4室研究員

研究者番号：50454492

研究成果の概要（和文）：

本研究は、イギリスの医療保障制度 NHS の変遷について、医療圏と地域医療連携の展開という観点からその特徴について歴史資料等をもとに検証を行った。具体的には、①病院と診療所の関係、②医療従事者の業務内容の変化、③医療と生活支援との連携、④医療システムと患者との関係などにまつわる検討をした。患者の医療アクセスや医療機関の機能分化、医療従事者が果たした役割の変容を浮き彫りにすることにより、時代ごとの NHS の特性を多面的に示すことができた。

研究成果の概要（英文）：

This study explored the development of the British health care system after the Second World War, and examined, using historical records, the transformation in medical regionalism and inter-sectional collaboration between health care institutions and professionals. It focuses on the following: (1) the relationship between hospitals and GP surgeries; (2) changes in the scope of practice of health care professionals; (3) collaboration between health care and related living-support services, including social care; and (4) the role of patients in the overall health care system. Thus, by examining changes in access to health services, the functional differentiation of medical institutions, and the role of health care professionals, this study reveals various significant features of the National Health Service in each period.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	600,000	0	600,000
2010年度	800,000	0	800,000
2011年度	600,000	0	600,000
年度			
総計	2,900,000	270,000	3,170,000

研究分野：社会福祉学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：医療提供体制、医療圏、医療アクセス、機能分化、専門職、連携、NHS、イギリス

1. 研究開始当初の背景

イギリスの医療制度 National Health Service (NHS) は、無料ですべての人に医療サービスを提供し、「福祉国家」の重要な基盤として、現在もなお多くの国民に支持されている。これまでの NHS に関する研究では、主にベヴァリッジ報告や福祉国家の成立関連付けて、その意義が評価されてきた。先行研究における議論では、公的サービス方式という NHS の財政面の特性が、主要な論点とされており、中央政府の政策決定に関する考察が中心となっていた。そして、地域医療のありように関する、社会科学的な見地に基づく研究は必ずしも十分になされているとは言えない状況であった。また、日本における NHS 研究は、同時代の海外事情への関心からなされるのが通常であり、通史的にその変遷に検討を加えた研究はわずかにすぎなかった。

他方、福祉に関わる領域では、地域でのサービス実態に注目した研究もいくつかなされてきた。だが、社会福祉分野での研究は、高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉などのように、サービスの対象別に分析を行う研究が多く、NHS に関わる問題は付随的な事柄として断片的に扱われるにすぎなかった。

このように、これまで日本でなされてきた NHS やイギリス福祉国家に関わる研究では、現場の実態を踏まえた地域医療連携の問題については、詳細な検討が加えられていなかった。その理由は、外国研究をするうえでの資料の制約という側面も否めないが、サービス現場や利用者の視点に立った制度のあり方が、かつては現在ほどには、問題とされていなかったためであると推察される。

NHS にまつわる連携の問題は、現代のイギリスにおいても重要な政策課題である。とりわけ 1971 年以降は、NHS に含まれていたホームヘルプや保育、精神保健サービスなどが社会福祉サービス (Personal Social Services ; PSS) へ移管されたこともあり、NHS と PSS との連携が問題となっている。本研究は、医療と福祉の連携にまつわる現代の政策研究と同様の問題意識を持ち、少子高齢化社会における医療提供体制について、福祉等の関連分野との役割分担のあり方を踏まえ、いかに連携を進めていくことが望ましいのかを、模索することを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、イギリス NHS の変遷を地域医療の展開という観点から捉え直し、サービス間の連携を促進するためにどのような取

り組みがなされたのかを、バーミンガム市などの地方都市における施策を軸として検討することを目的とする。それにより、現場のサービス従事者はいかにして政策の限界を克服し、保健・医療・福祉サービスの連携を図ったのかを検証する。また、イギリスの地域医療と連携の特色を地域社会に即した形で解明し、現代に至る NHS の変遷を福祉国家の展開の中に位置付けていく。

3. 研究の方法

本研究は、戦後イギリスの保健医療政策に関して、(1) 地域医療計画による医療圏の変化、(2) 地域医療連携の実態という 2 つの視点から研究を進めた。現地の資料館や公文書館等で入手可能な一次資料および内外の二次研究の成果などの史資料に基づいて検討を行った。また、史資料に基づく考察の妥当性を検証するため、イギリスの社会政策・社会福祉学・歴史学・看護学等の研究者、医療・福祉現場に従事する NHS 関係者にインタビューを行った。インタビューを通じた情報収集および意見交換から知り得た情報については、可能な限り文献の裏付けを取った上で研究成果を公表することに努めた。

4. 研究成果

(1) 医療圏・地域医療の管理体制

地域医療の管理運営体制は、NHS 改革のたびに変更が加えられてきた。1974 年、1982 年の改革は、患者の長期間の待機問題を解決し、地域ごとのサービス管理の効率化を目指していたが、目覚ましい効果は得られなかった。1990 年改革で準市場メカニズムが導入されて以降、NHS はプライマリ・ケアに重点を置いた医療制度へと転換された。同時に患者中心の医療を推進するため、従来的一次・二次医療圏を超えた受診を可能とする措置や一次医療で専門的なサービスの提供も開始された。このように、患者の医療へのアクセスには変化が起こりつつあるという流れが確認された。

(2) 地域医療連携の実態：

① 病院と診療所の関係

NHS の発足は、病院と診療所との明確な機能分化を実現し、イギリスの地域医療は長年その枠組みのもとで提供されてきた。専門的な医療は地区総合病院 (District General Hospital) に集約され、患者は診療所からの紹介を通じて病院へのアクセスを得た。

1990 年代の準市場の導入を経て、ブレア

政権以降、プライマリ・ケアを重視する方向性が決定づけられた。診療所から病院への紹介が必要である点は変わらないが、病院で提供されていた専門的医療を、コミュニティでの提供に移行する改革が進められた。そして、検査等の複合的な設備・機能を持つ大規模診療所の導入も行われた。

このように各々の医療機関で提供されるサービス範囲は時代によって異なることから、以下で述べる従事者の働きかたの変化についても検証を行った。

図1 1950年代頃の医療機関の機能分化と連携

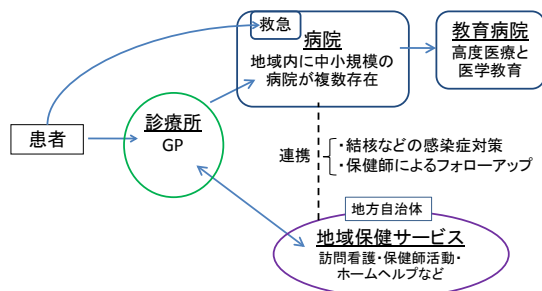
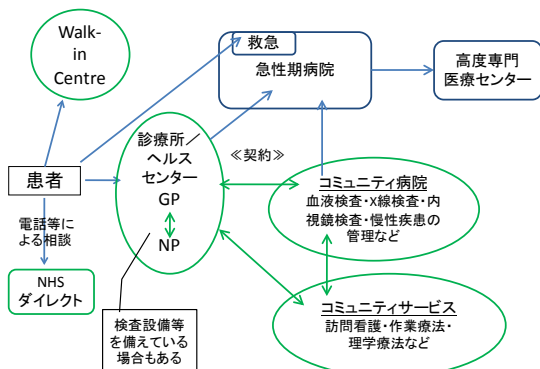


図2 2000年代以降の医療機関の機能分化と連携



② 医療従事者の業務内容の変化

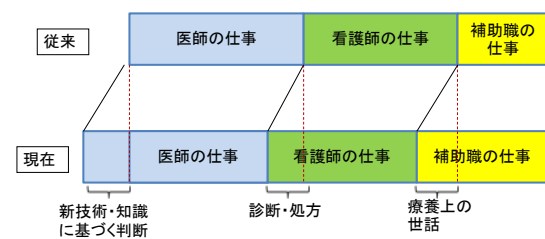
医療サービスの供給には、医師や看護師などの存在が不可欠であり、医療従事者がどのように結びつけられているのか、どのように連携しているのかが、供給されるサービスの形を特徴付けることにもなる。

NHSの発足によって、多様な医療従事者が制度の上では結びつけられたものの、診療所のGPは単独で診察することが多く、他の職種との協働や連携が実際に進展したのは1960年代以降であった。たとえば、各地の病院やグループ診療所に訪問看護師や保健師が配置され、患者の予診や退院患者の予後管理、健康診断など様々な診療補助業務に従

事するという変化が1960年代末にあった。

近年のイギリスでは、看護師やコメディカルの担う役割は、臨床現場の必要に応じて柔軟に拡大されていることがわかった。その理由の一つは、処方を除いて医療専門職の業務範囲が法令で細かく規定されていないためであった。こうした変化は、医師の専門職としての特権的な立場が減退したために、医師が担うべき業務が減ったということではなく、むしろ新技術の導入に伴う業務増加に対応することを目的として、円滑な連携によるチーム医療を模索した結果であるように見受けられた。

図3 イギリスの医療従事者の役割分担の変化



③ 医療と生活支援との連携

高齢者への訪問看護やホームヘルプなど在宅サービスは、1950～60年代はNHSのもとで提供されていた。ホームヘルプは元来、妊産婦のいる家庭での家事援助を目的としていたが、次第に高齢者の利用が増加したという変化が史資料の分析によって浮き彫りになった。1970年代以降、ホームヘルプが地方自治体の社会福祉サービスに移管されると、現在に至る医療との分離が決定づけられた。その解決策として、2000年代には一部の地域でNHSのプライマリ・ケアに社会福祉サービスを統合した「ケアトラスト」が形成された。両者の連携に依然として存在する困難は、国と地方との関係にもかかわる問題であるといえた。

④ 医療システムと患者との関係

患者本位の医療を推進する施策が、昨今のイギリスでは重要視されているが、医療システムの展開を遡れば、20世紀初頭に、公衆衛生施策の中心が環境衛生から対人保健へと変化し、個別的治疗が公的に提供されるようになったという経緯がある。

医療サービスの消費者としての患者の役割が強く意識されるようになったのは、政策決定過程への住民参加が始まった1974年のコミュニティ保健協議会の設置からであった。1991年には「患者憲章」が医療制度における患者の位置付けを明示し、2010年の

「NHS 憲章」でも患者の権利と義務が再確認された。とりわけ患者による選択の保障は近年の重要課題の一つであり、たとえば居住区域外の医療機関受診を可能にする改革がなされていた。また、退院後の継続ケア、精神保健、終末期ケアなどに対して導入された、**Personal Health Budgets**（個人医療予算制度）のパイロット事業は、従来の医療・介護制度の枠組みを超えた地域連携が可能となる試みであった。

以上のように、福祉国家の基盤として発足した NHS が、60 余年を経ていかに社会変化に対応したのかを、医療圏と地域医療連携という見地から多角的に検証した。患者の医療アクセスや医療機関の機能分担、医療従事者が果たした役割の変容を精緻に検討することで、時代ごとの NHS の特性はより明白に浮き彫りになった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

①白瀬由美香「英国における看護師の職務拡大：看護師による医薬品の処方に関する検討」『社会政策』査読有り、第 3 巻第 1 号、2011 年、pp.102-112.

〔学会発表〕（計 5 件）

①白瀬由美香「英国看護師の継続教育・人事評価システムに見る熟練の形成と専門性」第 31 回日本看護科学学会学術集会、2011 年 12 月 3 日、高知文化プラザかるぽーと。

②白瀬由美香「イギリスにおける上級看護師の役割に関する考察：養成システムと業務内容に注目して」日本保健医療社会学会第 37 回大会、2011 年 5 月 22 日、大阪大学。

③白瀬由美香「英国におけるホームヘルプ事業の展開：1948～74 年の医療・介護の関係をめぐる検討」日本社会福祉学会第 58 回秋季大会、2010 年 10 月 10 日、日本福祉大学。

④白瀬由美香「看護師の職務拡大と地域医療連携：イギリスにおける処方権の委譲をめぐる考察」社会政策学会第 119 回大会、2009 年 11 月 1 日、金城学院大学。

⑤白瀬由美香「イギリスにおける地域医療改革：ポリクリニック構想の特徴と課題」社会政策学会第 117 回大会、2008 年 10 月 11 日、岩手大学。

〔図書〕（計 1 件）

白瀬由美香「地域社会における医療のゆくえん：イギリス NHS の変遷をもとに」中川清・埋橋孝文編著『生活保障と支援の社会政策（講座 現代の社会政策 2）』明石書店、2011 年、pp.68-90.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等 特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白瀬由美香 (SHIRASE YUMIKA)

国立社会保障・人口問題研究所

社会保障応用分析研究部 第 4 室研究員

研究者番号：5 0 4 5 4 4 9 2